

## はくさい

農薬取締法上、「はくさい」と「非結球はくさい」は別の作物である。

はくさいには、「はくさい」「結球あぶらな科葉菜類」「葉菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

————— 発病・加害時期  
 ════════ 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋	まき	■							●	▲		■	■
									●	▲		■	■
									●	▲		■	■
べと病	と斑病	—									—	—	—
黒斑病	と斑病										—	—	—
白さび病	と斑病	—									—	—	—
軟腐病	さび病										—	—	—
根こぶ病	腐病										—	—	—
尻腐病	腐病										—	—	—
アブラムシ類	ムシ類										—	—	—
コナガ	ガ										—	—	—
ハイマダラノメイガ	ガ										—	—	—
ヨトウムシ類	ムシ類										—	—	—
アオムシ	シ										—	—	—

## べと病

### 留意事項

- 1 晩秋と春の低温、多雨時に発生が多い。
- 2 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。高温条件下では、結球前に散布すると薬害が生じるので使用しない。
- 3 QoI剤<<11>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 4 ダコニール1000、プロポーズ顆粒水和剤の成分TPNの総使用回数は3回以内（但し、は種または定植前の土壌混和は1回以内、散布は2回以内）。

### 防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 密植を避ける。
- 3 肥効切れ、窒素質肥料の過用を避ける。
- 4 被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 7日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [オーソサイド水和剤80](#) <M 4> 【600倍 7日/5回】
  - ・ [ピシロックフロアブル](#) <U 1 7> 【1000倍 前日/3回】
  - ・ [ランマンフロアブル](#) <2 1> 【2000倍 3日/4回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 7日/4回】
  - ・ [プロポーズ顆粒水和剤](#) <M 5> <4 0> 【1000倍 7日/2回】

## 黒斑病・白斑病

### 留意事項

- 1 予防的防除に重点をおく。
- 2 晩秋から初冬にかけて雨の多い年に発生が多い。
- 3 SDHI剤<< 7 >>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 4 ダコニール1000、プロポーズ顆粒水和剤の成分TPNの総使用回数は3回以内（但し、は種または定植前の土壌混和は1回以内、散布は2回以内）。

### 防除方法

- 1 肥効切れしないように、肥培管理に注意する。
- 2 被害葉は、早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 排水を良好にする。
- 4 なるべく連作を避ける。
- 5 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ダコニール1000](#) <M 5> 【1000倍 7日/2回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ロブラール水和剤](#) <2> 【1000~1500倍 14日/3回】
  - ・ [プロポーズ顆粒水和剤](#) <M 5> <4 0> 【1000倍 7日/2回】
  - ・ [パレード20フロアブル](#) << 7 >> 【2000~4000倍 前日/3回】

## 白さび病

### 留意事項

- 1 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。高温条件下では、結球前に散布すると薬害が生じるので使用しない。
- 2 QoI剤<< 1 1 >>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 ダコニール1000、プロポーズ顆粒水和剤の成分TPNの総使用回数は3回以内（但し、は種または定植前の土壌混和は1回以内、散布は2回以内）。

### 防除方法

- 1 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ダコニール1000](#) <M 5> 【1000倍 7日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ピシロックフロアブル](#) <U 1 7> 【1000倍 前日/3回】
  - ・ [ライメイフロアブル](#) <2 1> 【2000~4000倍 7日/4回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [アミスター20フロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 7日/4回】
  - ・ [メジャーフロアブル](#) << 1 1 >> 【2000倍 3日/3回】
  - ・ [プロポーズ顆粒水和剤](#) <M 5> <4 0> 【1000倍 7日/2回】

## 軟腐病

### 留意事項

- 1 薬剤は株の地際部にも十分散布する。
- 2 害虫の加害傷口から病原菌が侵入することが多い。
- 3 秋期温暖の年に発生が多い。
- 4 土壌pHが中性（pH6~7）で発生しやすい。
- 5 アグリマイシン-100は、薬害のおそれがあるため、高温期または幼苗期に使用しない。
- 6 だいこん、かぶ、にんじん、ねぎ、トマト、ばれいしょなども侵す。

### 防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 過度の早植えは避ける。
- 3 排水を良好にする。
- 4 キスジノミハムシ、ハイマダラノメイガ、ヨトウムシ、アオムシなどの防除を徹底する。
- 5 被害株は、早めにほ場外へ持ち出し処分する。
- 6 は種または定植時に、下記の薬剤を施用する。
  - ・ [オリゼメート粒剤](#) <P 2> 【6~9kg/10a 全面土壌混和 は種時または定植時/1回】
- 7 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [キノンドー水和剤40](#) <M 1> 【800倍 30日/5回】
  - ・ [マスタピース水和剤](#) <- (生)> 【1000~2000倍 前日/-】
- 8 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アグリマイシン-100](#) <4 1> <2 5> 【1500~3000倍 14日/3回】
  - ・ [バリダシン液剤5](#) <U 1 8> 【500倍 3日/3回】
  - ・ [スターナ水和剤](#) <3 1> 【1000倍 7日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 根こぶ病

### 留意事項

- 1 薬剤は土壌とよく混和する。
- 2 酸性で排水不良のほ場に発生が多い。

### 防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 石灰質肥料を施用して、土壌酸度をpH6.5~7.2に矯正する。
- 3 排水を良くし、過湿を避ける。
- 4 有機質資材を施用し、土づくりに努める。
- 5 秋まきの場合は、早まきを避ける。
- 6 は種または定植前に、下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ネビリュウ](#) <36>  
【20~30kg/10a 全面土壌混和 は種または定植前/1回】または  
【20kg/10a 作条土壌混和 定植前/1回】
  - ・ [フロンサイド粉剤](#) <29>  
【30~40kg/10a 全面土壌混和 は種または定植前/1回】または  
【15~20kg/10a 作条土壌混和 は種または定植前/1回】
  - ・ [ランマンフロアブル](#) <21>  
【500倍 2L/セル成型育苗トレイ1箱、またはペーパーポット1冊（30×60cm、  
使用土壌約2.5~7L） かん注 定植前日~当日/1回】  
【2000倍 株元かん注 14日/1回】

## 尻腐病

### 留意事項

- 1 11月以降、収穫まぎわに発生が多い。
- 2 SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 石灰質肥料を施用して、土壌酸度を矯正する。
- 3 未熟な有機質資材の投入は控える。
- 4 収穫後、被害葉はほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 発病の恐れのあるほ場では、下記の薬剤で土壌消毒を行う。  
(XⅢ土壌消毒 2土壌病害虫等を対象とした薬剤による土壌消毒 (4) 参照)
  - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <->  
【20~30kg/10a は種または定植21日前/1回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [アフェットフロアブル](#) < 7 > 【2000倍 前日/3回】
- ・ [ネクスターフロアブル](#) < 7 > 【1000倍 7日/3回】
- ・ [リゾレックス水和剤](#) < 14 > 【1000倍 14日/3回】

## ウイルスによる症状

### 防除方法

- 1 発病株は速やかに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 アブラムシ類の防除に努める。(アブラムシ類の項参照)

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 苗床は寒冷しゃで被覆して、アブラムシ類の飛来を防ぐ。

### 防除方法

- 1 下記の薬剤を、育苗期に処理する。
  - ・ [ベリマークSC](#) < 28 >
    - 【400倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5~4L） かん注 育苗期後半~定植当日/1回】
- 2 定植時に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4A > 【2g/株 植穴土壌混和 定植時/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アディオン乳剤](#) < 3A > 【2000倍 7日/5回】
  - ・ [コルト顆粒水和剤](#) < 9B > 【4000倍 3日/3回】
  - ・ [トランスフォームフロアブル](#) < 4C > 【2000倍 3日/3回】

## コナガ

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 幼虫による被害が著しいのは春と秋である。
- 3 あぶらな科野菜を加害するほかナズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウなどのあぶらな科雑草にも寄生する。
- 4 セル成型苗では、定植前に薬剤をかん注処理すると省力的に防除できる。
- 5 コテツフロアブルは、薬害のおそれがあるため、8葉期以降に使用する。

### 防除方法

- 1 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ベリマークSC](#) < 2 8 >  
【400倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） かん注 育苗期後半～定植当日/1回】
- 2 定植時に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4 A >  
【2～3g/株 植穴土壌混和 定植時/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [グレーシア乳剤](#) < 3 0 > 【2000～3000倍 7日/2回】
  - ・ [アフーム乳剤](#) < 6 > 【1000～2000倍 7日/3回】
  - ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500～5000倍 前日/2回】
  - ・ [ヨーバルフロアブル](#) < 2 8 > 【2500～5000倍 前日/3回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 < 1 3 > 【2000倍 前日/2回】
  - ・ [BT剤](#) < 1 1 A > (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

## ハイマダラノメイガ

### 留意事項

- 1 だいこん等あぶらな科作物を加害する。
- 2 7～10月が高温少雨の年に多発する傾向がある。
- 3 食入前の防除に努める。

### 防除方法

- 1 育苗中の苗は寒冷しゃ等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 定植には健全苗を使用し、本ぼへの幼虫の持ち込みを防ぐ。
- 3 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。
  - ・ [ベリマークSC](#) < 2 8 >  
【400倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） かん注 育苗期後半～定植当日/1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を芯葉までかかるよう丁寧散布する。
  - ・ [グレーシア乳剤](#) < 3 0 > 【2000～3000倍 7日/2回】
  - ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500～5000倍 前日/2回】
  - ・ [アクセルフロアブル](#) < 2 2 B > 【1000倍 前日/3回】
  - ・ [ハチハチ乳剤](#) 劇 < 2 1 A > 【1000～2000倍 14日/2回】

## ヨトウムシ類

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [グレースシア乳剤](#) <30>  
【ハスモンヨトウ・ヨトウムシ・シロイチモジヨトウ 2000～3000倍 7日／2回】
- ・ [ベネビアOD](#) <28>  
【ハスモンヨトウ・ヨトウムシ・シロイチモジヨトウ 2000～4000倍 前日／3回】
- ・ [アフファーム乳剤](#) <6> 【ヨトウムシ 1000～2000倍 7日／3回】
- ・ [ディアナSC](#) <5> 【ハスモンヨトウ・ヨトウムシ 2500～5000倍 前日／2回】
- ・ [アクセルフロアブル](#) <22B>  
【ハスモンヨトウ・ヨトウムシ 1000～2000倍 前日／3回】
- ・ **BT剤** <11A> (Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

## アオムシ

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [グレースシア乳剤](#) <30> 【2000～3000倍 7日／2回】
  - ・ [ベネビアOD](#) <28> 【2000～4000倍 前日／3回】
  - ・ [アフファーム乳剤](#) <6> 【1000～2000倍 7日／3回】
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) **劇** <4A> 【1000～2000倍 14日／3回】
  - ・ **BT剤** <11A> (Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。